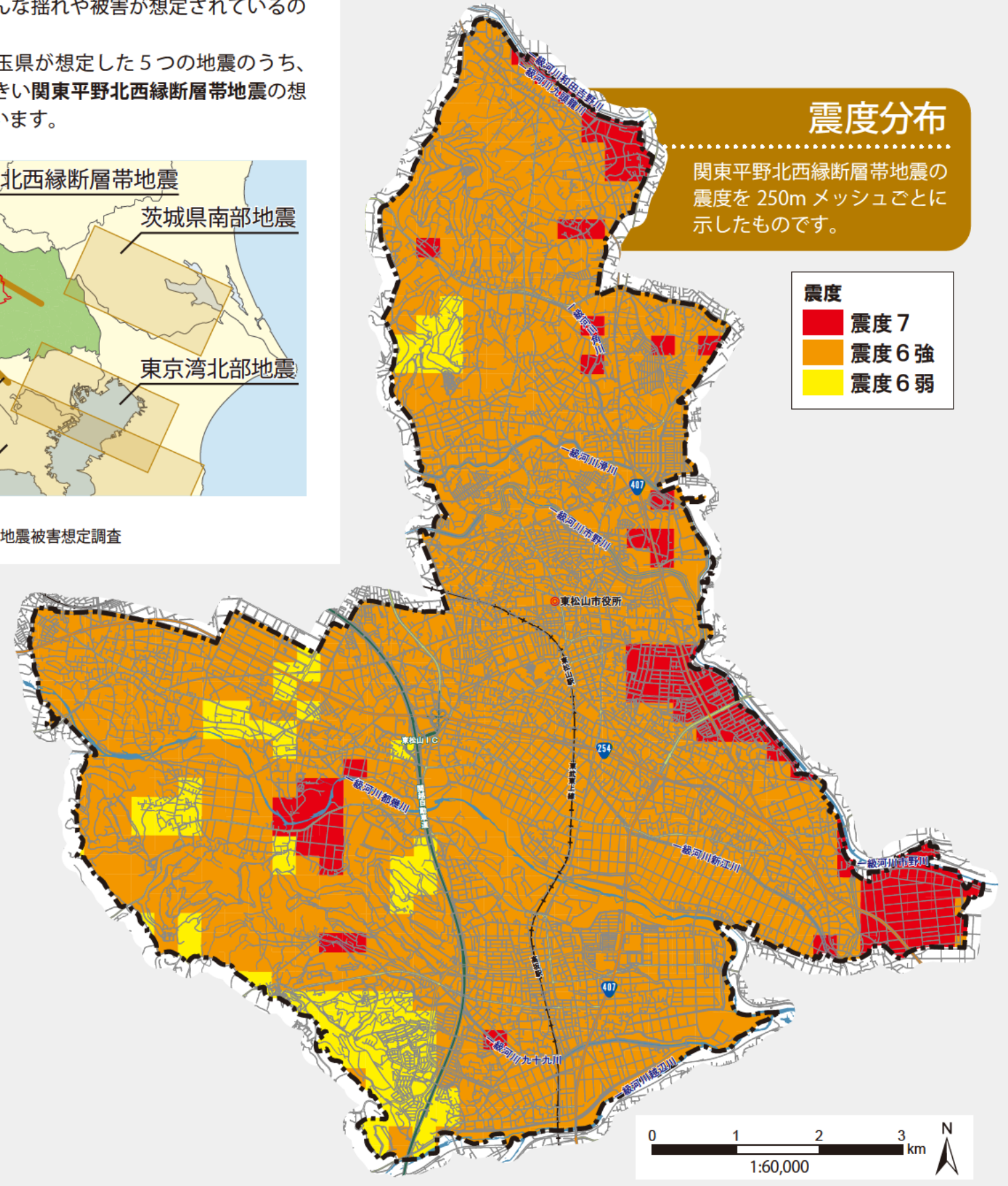


地震ハザードマップ

東松山市では、どんな揺れや被害が想定されているのでしょうか。
このマップは、埼玉県が想定した5つの地震のうち、東松山市に影響が大きい関東平野北西縁断層帯地震の想定を基に色付けしています。

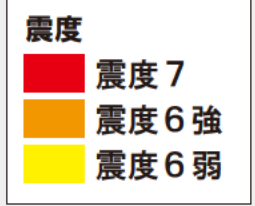


▲想定地震の断層位置図
平成 24・25 年度埼玉県地震被害想定調査



震度分布

関東平野北西縁断層帯地震の震度を 250m メッシュごとに示したものです。

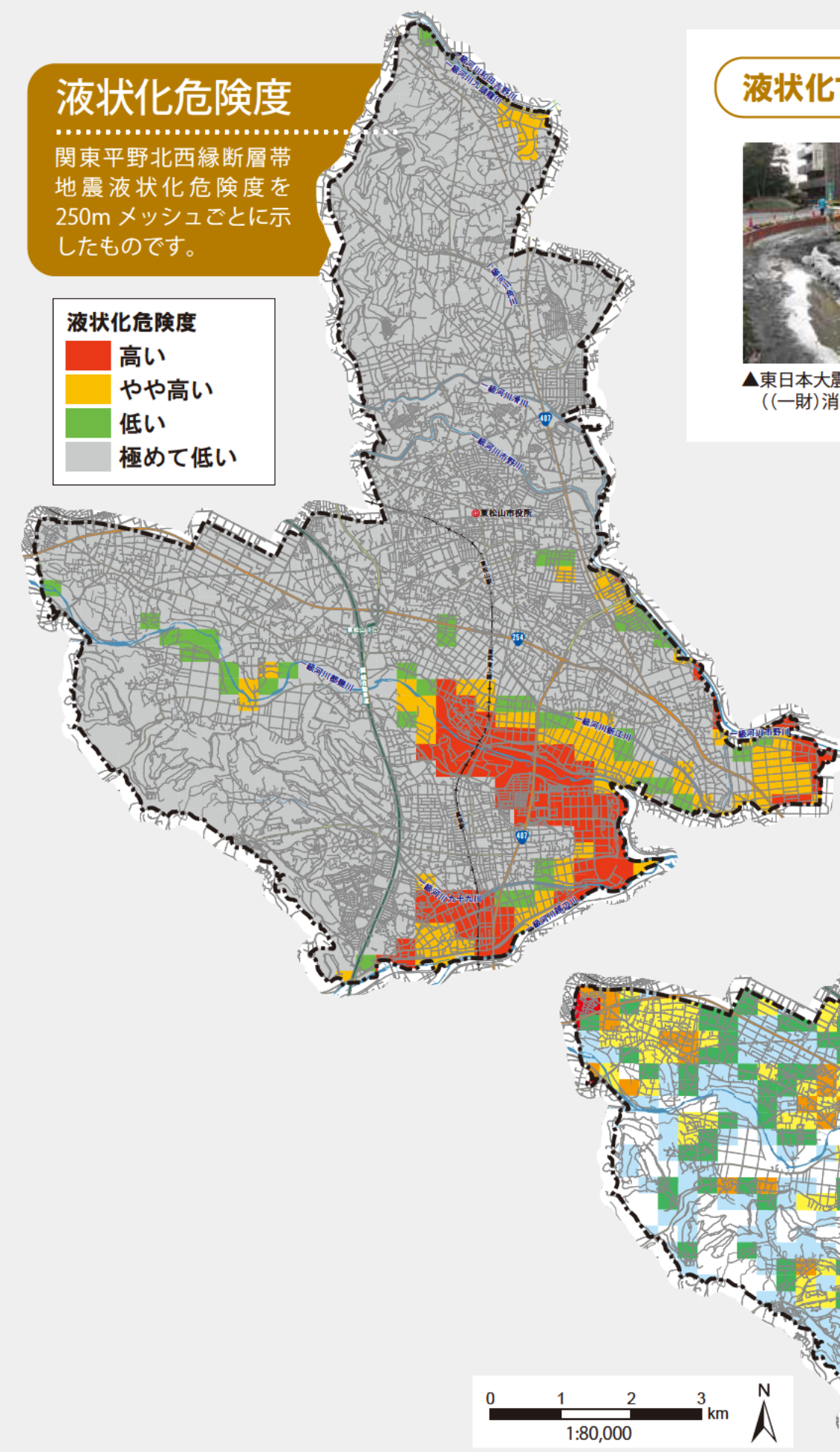
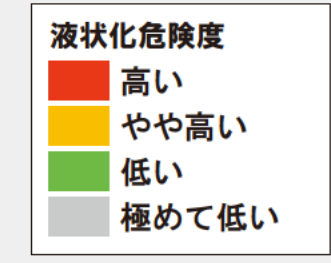


震度 どんな揺れ？

震度 5 弱	震度 5 強	震度 6 弱	震度 6 強	震度 7
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 - 棚にある食器類や本が落ちることがある。	- 物につかまらなないと歩くことが難しい。 - 固定していない家具が倒れることがある。 - 補強されていないブロック塀が崩れることがある。	- 立っていることが困難になる。 - 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	- はわないと動くことができない、飛ばされることもある。 - 大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山林の崩壊が発生することがある。	耐震性の低い建物は、傾くものや倒れるものが増える。

液状化危険度

関東平野北西縁断層帯地震液状化危険度を 250m メッシュごとに示したものです。



液状化するとどうなるの？

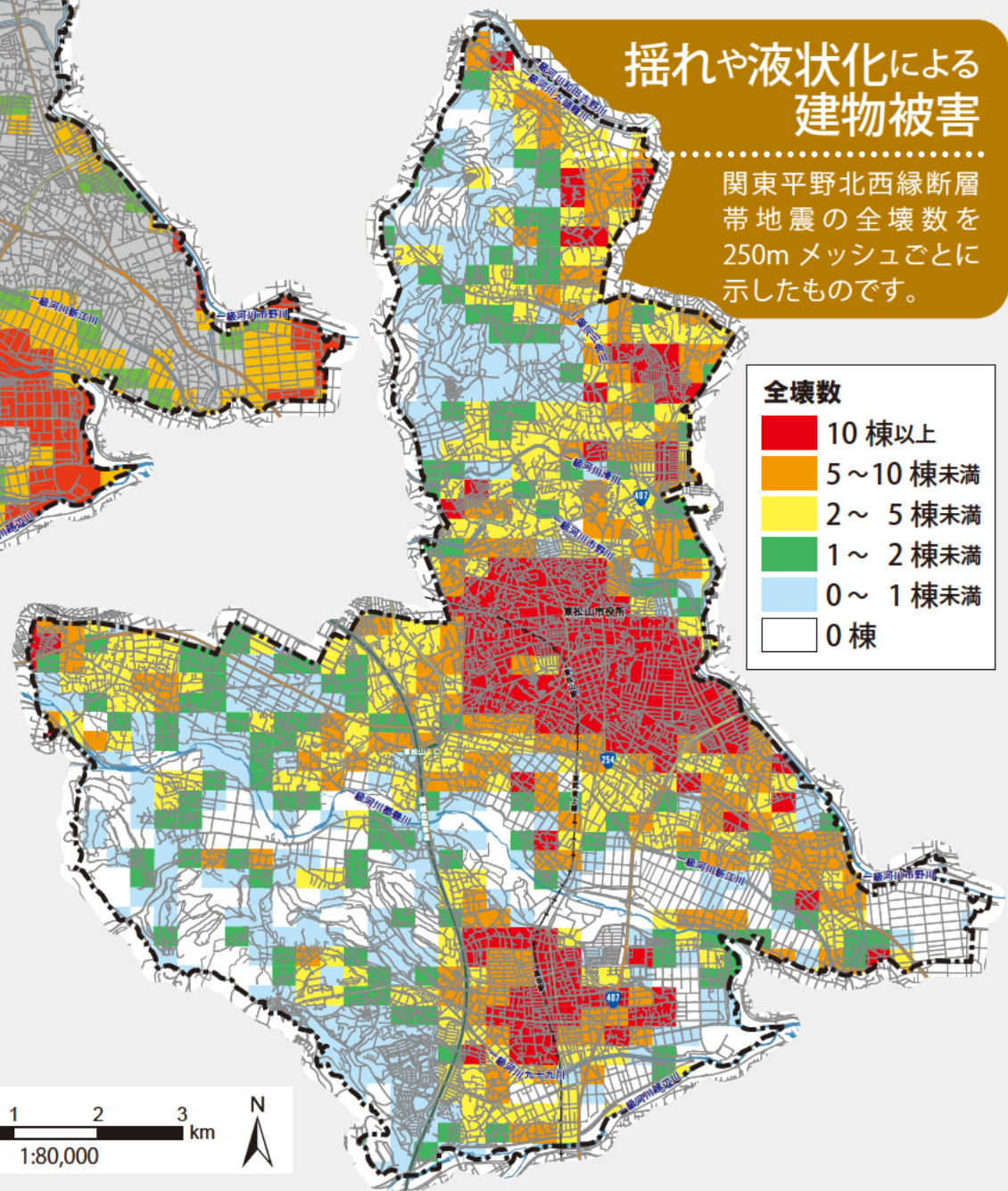
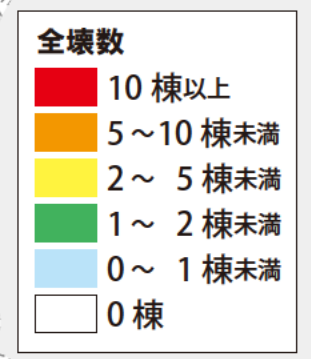


▲東日本大震災での液状化被害
((一財)消防防災科学センター)

地震の振動によって地盤が液状化すると、建物などが傾く、地中のガス管や水道管が壊れる、砂まじりの水が地表に噴出する、などの被害が生じます。

揺れや液状化による建物被害

関東平野北西縁断層帯地震の全壊数を 250m メッシュごとに示したものです。



液状化ってどんなこと？

液状化現象は、地下が砂の層であり、地下水位が高い場所で揺れが発生すると起こり得る現象です。

液状化現象が起こる前	地震の発生	液状化現象が起こる	液状化現象による被害
		揺れによって地下水位が大きくなり、くっつき合っていた砂粒がバラバラになる。砂粒は水の動きに合わせて動いたり流れたりして、液状化してしまう。	水の動きで、土の層が波打ったり穴が開いたり裂けてしまう。このため、地割れ、地面の波打ち、噴砂、陥没などの被害が発生する。